

今年の農業観測

生産は微増するが
所得は落込む？

農林省は去る5月4日、48年度の「農業観測」を発表したが、これによると、農業生産の伸びは、4年ぶりに上向いた47年度より落ち、微増にとどまるが、一方、農業資材の価格急上昇などによって、農産物価格がやや値上りする見込みなので農業総産出額は前年度をある程度上回る見通しである。

しかし、農業生産の伸びが鈍ったり、経費が増大しているため、生産農業所得は前年度の伸びを大きく下回るものとみられる。

しかし、自給率の低下などで、日本の農業経済は世界の農産物需給の変化に、大きく左右される体質となっているので、海外の農業生産の動きによっては、こんどの「観測」もかなり修正されることになるかと農林省ではみている。

農業生産 農業生産は、米価の抑制や、米の生産調整などで、44年度から46年度までそれぞれ前年度を下回り続け、兼業や出かせぎ増大の大きな原因となってきたが、47年度は米価引上げや、米、みかんの豊作などで5.9%も伸びた。

しかし、48年度は、豚肉や大豆の生産増は見込まれるが、麦類やイモ類が引続きかなり減少するほか、みかんが裏作に当るので、全体としては僅か1~2%の伸びで終りそうである。

農産物価格 一方、農産物価格は、牛乳や鶏肉、大豆がかなり値上りし、みかんも大豊作で暴落した前年度の水準を、だいぶ持直す見通しなので、4%弱の上昇が予想されている。しかし4.9%も値上りした47年度にくらべれば、やや落ち着いた感じである。

農業総産出額 農業総産出額は、45年度に僅か1%の伸びで頭打ちとなり、46年度は15年ぶりに前年度を下回った。しかも5.2%もの大巾減少で農村不況の深刻化が問題になったが、昨年度はいっきょに9.9%前年度を上回り、農家経済にひと

息つかせた。

48年度の農産物の生産・価格の見通し

		(対47年度比)	
		生産量	価格
農業生産		1-2%	↗
農産物価格		4%弱	↗
農業総産出額		5%くらい	↗
農業資材価格		7%程度	↗
生産農業所得		3%強	↗
品目	生産量	価格	
米	6-15%台	↘	
小麦	2%台以内	↘	
牛乳	2%台以内	↗	6-10%台 ↗
豚肉	6-15%台	↗	安定的に推移
鶏肉	6-15%台	↗	3-5%台 ↘
カン	6-15%台	↘	3-5%台 ↘
リンゴ	2%台以内	↘	11-15%台 ↗
ブドウ	2%台以内	↘	3-5%台 ↗
野菜	3-5%台	↗	6-15%台 ↗
パレイシ	6-10%台	↗	3-5%台 ↗
大豆	6-15%台	↗	3-5%台 ↗
茶	2%台以内	↗	6-10%台 ↗
			3-5%台 ↗

〈注〉↗は増加または値上り、↘は減少または値下り、→は横ばい

48年度も、農業生産の微増と若干の価格上昇によって5%くらいの伸びが期待されているが、前年度の伸び等には遠く及ばない。

生産農業所得 また農業総産出額から経費を引き、米生産調整奨励補助金などを加えた生産農業所得も、47年度は前年度を12.7%も上回ったが48年度は3%強と、伸び率はかなり落込む見込みである。

こんどの「観測」で目を引くのは、農業資材価格が昨年度を7%程度も上回るとみられていること、農業資材はこのところせいぜい3%台の上昇率で取ってきたが、今度は農業機械や、肥料、農業などの値上りに加えて、配合飼料の価格がさらに高騰する気配が強くなり、農家の経営を大きく圧迫しそうである。

あとがき 内外の情勢は最近相当の振幅で揺れ動いているようです。これまでのような安易な(と云っては誤弊があるかも知れませんが)考えで問題に対処することは到底不可能な時代に突入しそうです。

とくに、国際的な異常気象がもたらす農産物の不作は、容易ならぬ問題に発展する可能性があります。わが国の米は、当分需給面に問題はないという楽観論というか、オーソドックスな見方というのかとにかく一部には“まだ心配ない”とする意見がありますが、果してそうでしょうか？

関東以西は別としても、今夏の東北は寒冷な気象に見舞われると予報されているにつけ、何となく肌寒さを覚えてならないこの頃です。(K生)